



愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！日中の寒暖差が激しい最近ですね。昨日も一日中ずつと雨でしたが、主日の今朝は晴れて感謝です。本日も、クリスチャンプレイズチャーチの主日合同礼拝へおいで下さった信仰の家族のみなさん、心から歓迎致します！本日もともに礼拝を捧げるお一人お一人の上に、神の恵みと平安を豊かにお与え下さるように、主の力強い御手がみなさんの上に今週もともにあり、愛するみなさんの心も体も、たましいも見守り、助け支えて下さるように切にお祈り申し上げます！

< 1. 過越の祭り十字架のイエスキリストによる神の救い >

まず、今日の聖書箇所本文の背景を説明させていただきます。今日の本文はイエス様が12歳になった年の出来事の内容です。イエスキリストのご誕生の内容以外、イエスキリストご自身が公に救い主としてお働きをされる前の福音書の唯一記されている出来事の内容ですから、とても大事な意味がある内容に間違いないと信じます。

今日の聖書箇所の内容は、イエス様が12歳になった年の過越(すぎこし)の祭りに起こった出来事です。実は、今年の過越の祭りは、ユダヤ暦ニサン月14日の夜から1週間とされており、毎年日程が変わりますが、いつも春の時期であり、今年は、ちょうど4月5日から、先週木曜日4月13日までが過越祭にあたりました。過ぎ越しの祭りは英語では「Passover (パスオーバー)」、ヘブル語では「Pesach (ペサハ)」と呼ばれています。

実は、この過越の祭りはとても大事な意味がありますので、もっと説明させていただきます。

過越の祭りとは、神がモーセを通して、エジプトで奴隷として苦しんでいたイスラエルの民を引き連れてエジプトを脱出したことを記念するまつりであります。神様によってモーセはエジプトに遣わさせ、エジプトの王ファラオにイスラエルの民をエジプトから旅立たせるように交渉しますが、エジプトの王ファラオはモーセのことばに耳を傾けませんでした。そこで、神様はエジプトに対して、10回の災いを下すのを、モーセを通してファラオに伝えます。

その10番目の災いとは、エジプト地の中の生まれたファラオの長男から始め、人も家畜も全長子(ちょうし)や初子たちのいのちに死を与えることでした(出11章5-6節「エジプトの地の長子は、王座についているファラオの長子から、引き臼(うす)の後ろにいる女奴隷の長子、それに家畜の初子に至るまで、みな死ぬ。16そして、エジプト全土にわたって大きな叫びが起こる。このようなことは、かつてなく、また二度とない。」)

しかし、エジプト中ですから、その中にはイスラエルの民の初子たちも含まれていたため、そのままだったら、神の死のわざわいに当たってしまうため、神様は、イスラエルの民にはモーセを通して一つの約束を与えて下さいました。出エジプト記12章5-7節「5あなたがたの羊は、傷のない一切の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。7その地を取り、羊を食べる家々の日本の門柱(もんちゅう)と鴨居(かもい)に塗らなければならない。」

つまり、神様の命令を信じ従うことにより、子羊を殺し、その血を家々の二本の門柱と、かもいに子羊の血をつけることを通して、その血をみてその家を通り過ぎる(救われる)と約束して下さいました。神様はこのことを特別な事として、その子供たち、また、その子孫に特別な祭りとして毎年、守るように命じられ、その以来イスラエルの民たちは、毎年過越の祭りは大切に守って来たわけでありました。

マタイの福音書26章を見ると、祭司長、民の長老たちはイエス様を捕らえて殺そうと計画しましたが、過越の祭りの時は避けようと相談していました。なぜなら過ぎ越しの祭りとなると、世界中からたくさんのイスラエルの民たちが集まる祭りだったからです。宗教指導者たちは、イエス様を捕らえた場合、イエス様を支持する人々の暴動(ぼうどう)が起こるかもしれないと民衆を恐れたのです。しかし、宗教指導者たちや民の長老たちは、イエス様を捕らえ、早々に裁判にかけて、一日でイエス様に死刑の判決を言い渡し、執行したわけですが、神の御子、神の御羊であられるイエス様はこの過越の祭りの時に殺されなければならなかったのです。

過越の祭りとイエス様の十字架の死とは幾つかの共通点があります。

①(罪の死の裁きからの神の救い) 過越の祭りは、エジプトに降る死の裁きから神の救いでした。イエス様の十字架の死も、私たちの罪のゆえに降る、罪の裁きから神の救いです。

②(血による神の救い) 過越の祭りでは、子羊が殺され、その血を二本の門柱とかもいに塗り、神様はその血を見てその家を通り過ぎ、神の救いを与えると約束されました。イエス様の救いも、ご自分のいのちを十字架でささげ、血を流し、そのイエス・キリストの血潮を信じるすべての者に、罪の裁きから、通り過ぎる神の救いを受けられると神は約束して下さいました。

③(神の救いを覚え守り行) 神様はモーセを通して、この過越の祭りを毎年守るようにイスラエルの民に命じました。イエス様はご自分が十字架の上で殺される前に、最後の晩餐の時、弟子たちにご自身の体を意味するパンと罪赦すために流す血を意味するぶどう酒を与え、この儀式(聖餐式)を守るように弟子たちに命じて下さったのです。

ですから、過ぎ越しの祭りは、イエス・キリストの十字架の死と救いをあらわした祭りでありました。現在私たちは過越の

祭りを守ることはありませんが、聖餐式を通して、神様が私たちに与えてくださった十字架のイエスキリストによる救いの約束を忘れないようにと、聖餐式を守っているのです。

イスラエルのユダヤたちは出エジプト記23章14節、申命記16章16節に神は「**年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない。**」と言われた命令に従って年中3代祭りを守り行ないました。その三つが過ぎ越しの祭り(種を入れないパンの祭り:ペサハ)、七週の祭り(五旬節:シャブオット)、仮庵(いお)の祭り(スコット:レビ記23:42-43)になると12歳以上の男性たちはみんなエルサレムの神の宮があるエルサレム聖殿に上って、神様に礼拝をささげました。これは12歳の成人になったユダヤ人たちの守るべき信仰のしきたりでした。そういうわけですから、イエス様も12歳になった時、過越の祭りを守るために、親であるヨセフとマリアと一緒にエルサレム聖殿に上りました。

ところが、過越の祭りが終わって、家に帰る途中、しかも一日も過ぎてから、イエス様が見えないことにヨセフとマリアは気づかされました。ヨセフとマリアは慣習を守っているうちに、一番大切なイエスを失ってしまったのです。しかし、ヨセフとマリアはこの過ちを通して、さらにもっと大きな事を得ることができます。

<2. 本文>

①イエスを見失ったヨセフとマリア

過越の祭りはイスラエル人にとって一番大きい祭りとして、イスラエルだけではなく、イスラエル全土及び世界から多くのイスラエル民がエルサレムに集まってくるので、エルサレム城内ではとつても混雑でさわがしかったでしょう。歴史家のヨセフスという人の記録によると、イエス様の当時過ぎ越しの祭りには神様にささげるためにほふられた羊だけでも200万匹以上だったそうです。ですから、当時エルサレムに来た人たちは200万人より多くあったはずで、こんな状況で迷子になることは、少しでも注意しないと起こりやすい出来事だったかも知れません。我々も昨年一年を過ごしながらかみりにも複雑で忙しさにおわれ、何か大事な事を失われたことはなかったでしょうか。一年間みなさんは、イエスキリストを見失っていませんでした。

②一日の道のりほど行っても、イエスを失われたことに気付かされなかったヨセフとマリア

当時は交通もあまり発展してなかったため、山の泥棒や強盗に襲われる危険があったため、きっと親戚や町の人々が一緒に行動したはずで、ヨセフとマリアは当然成人になったと思込んでたのか12歳のイエス様も人々に混じっているのだと考え込んだと思います。それで、一日の道のりを行った後、ようやくイエス様がいなくなること気付かされました。

ここで、一日の道のりを行った後という時間的に考えれば、少なくとも約10時間以上で、距離的には30-40km以上なので、ある意味でとつても親として無責任なことでしょう。本文44節によると、一日の道のりを進んだと言うことは、途中ご飯の時間もあつたはずで、イスラエルの荒野の道では水を飲まなければいけなかったはずなのに、これらのことを全部やりそこねたわけです。**ヨセフとマリアにとって一番大切な存在、一番大切な関係、一番大切な人を見失ってしまったわけ**であります。ある意味でヨセフとマリアだけが、イエスを見失ってから気付かなかつただけではなく、こんにちの多くの人も忙しい実生活の中で時間や人や仕事におわれたり、何かに夢中になっていることのため、イエスキリストとの関係が離れていても気づかず、信仰を失ってもそれを気付かされず、祈りを失っても気付かされない、イエスと共に歩んだところからいつの間にかキリストから大分離れてしまいキリストを失っているのに関わらず、気付かずに過ごす時がなかったでしょうか。

愛する信仰の家族のみなさんは失われたことは何であるか是非、振り替えて見てほしいです。もし、ヨセフとマリアも一日の道のりを行っている間、食事や水でもちゃんとイエス様に与えようとしたのなら、見失なわれずに、もっと早く気づき、見つけたはずでしょう。もっと大きいマリアとヨセフの問題は、イエスキリストを失われても、しばらくそれに気付かされてなかったことではないでしょうか。みなさんは昨年一年間の歩みの中でずっとイエスキリストと共に歩んで来られたのでしょうか。今年もイエスとともに歩める23年度となりますように祈ります。

③見失ったイエス様を間違つた所で必死に探すヨセフとマリア

今日の本文44-45節に「**後になって親族や知人の中を捜し回つたが**」と書かれています。ヨセフとマリアはどこで、イエスを失ったのかすら気付かず、親族と知人の中にいるだろうと思込み、必死に捜し回つても当然見出すことはできなかったのです。本文46節に「**三日後になって…イエスが宮でおられるのを見つけた**」というのはちょっとおかしいのではないのでしょうか。今離れた距離は1日距離だったのに、イエスを三日間も違うところばかり必死に捜し回つたという意味でもあります。その間どんなにさらに心配しながら捜したのでしょか。愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！同じように、多くの人々は道であり、真理であり、命であるイエス様を失ったまま、ほかのところばかりで必死に問題解決を、生きがいを捜していたため、再びイエスキリストを見出す事が遅れてしまった時はなかったでしょうか。

アメリカの貧しい黒人たちが住んでいる町を“ハレム”と言います。知り合いのアメリカに住んでいる知人の話によると、ニューヨークのハレムに行くと、建物の壁によく落書きや町中にごみが散乱(さんらん)して汚いまあるそうです。そしたらアメリカの市当局からはその町をきれいに整備しないのかと聞くと、それが以前何度もやってもまた同じく状況になってしまうため、住んでいる人々がこのままは良くないことだと自ら悟らせるためにそのままわざと置かせているそうです。そして、その友達はそのハレム町のある壁に書いてあつた変な詩篇23篇の内容について教えてくれま

した。内容はこうです。「お金は私の羊飼、私はとぼしい事はありません。
お金が私を緑の牧場に伏させ、憩いの水のほとりに伴われます。
お酒は私の羊飼、私はとぼしい事はありません。
お酒は私を緑の牧場に伏させ、憩いの水のほとりに伴われます。
セックスは私の羊飼、私はとぼしい事はありません。
セックスは私を緑の牧場に伏させ、憩いの水のほとりに伴われます。」

正しいのは何ですか。「**主は私の羊飼、私はとぼしいことはありません！主は私を緑の牧場に伏させ、憩いの水のほとりに伴われます！**」いくら人が神の代わりに、イエスキリストの代わりのもので自分の人生を満たそうとしても、イエスキリストの代わりにすることはできないではありませんか。

なぜでしょうか。人は神の形によって造られたので、真の神様に立ち返るまでは、イエスキリストを見出し、出会えるまでは、自分の真の満足を得ることは出来ないからです。多くの人々は神様ではない、イエスキリストの代わりに、他の所で人生の真の満足を、幸福を、人生の根本的な問題解決を見つけようとしているところはないでしょうか。

黙示録2章には、小アジアの初代教会の7つの教会の群れに対するイエスキリストのメッセージが書かれていますが、はじめ、エペソ教会の共同体に対し、主イエスキリストからのほめる言葉もありました。「**あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れ果てなかった(黙示録2章3節)**」と。けれども、主から厳しく責められるところがありました。何だったのでしょうか。「**けれども、あなたには責めるべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。5だから、どこからおちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。そうせず、悔い改めないなら、わたしはあなたのところに行って、あなたの燭台をその場所から取り除く。(黙示録2章4-5節)**」

礼拝の形、信仰の奉仕や行いには熱心でしたが、いつのまにか、イエスキリストを見失い、イエスキリストと人格的な愛の交わり、愛の関係を見失ってしまったキリストへの愛をどこで見失ったのか、もう一度何よりもイエスキリストとの関係を取り戻すように言われました。今日、我らにはそのようなところがないのか、主の御前で自身を振り返って見て見たいと願います。

<③必死にイエスキリストを探し続けるヨセフとマリア>

イエスを失われた後、ヨセフとマリアはどうしましたか。

当然、必死に、続けて捜しました！どんな親であっても自分の愛する一人子が迷子になったら、必死に探すことになるのは当然でしょうね。本文の45-46節で「45見つからなかったので、**イエスを捜しながらエルサレムまで引き返した。46そして三日後になって、イエスが宮で教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。**」と記録されています。

ヨセフとマリアはイエスを失ったことに気付いてから、エルサレムまで戻るまで、一日の道のりを三日もかかりました。この意味はただ適当に捜したのではなく、隅々(すみずみ)まで力を尽くして必死に捜し続けたからでしょう。

親として、もっばら子を捜すのにどれほど切実な心で、必死だったヨセフとマリアの心と姿勢だったのでしょうか。どんなに時間やエネルギーやお金や犠牲を払うことになっても、見失ったイエスを見つけることが出来るならば、どれほど必死だったのでしょうか。この時に適当な親はいるのでしょうか。こんな時にいい加減にする親はいないでしょう。もし私たちも、特にコロナ禍の3年間、以前とは違って、イエスキリストともにし、ともに交わりつつ、日々歩んだ姿を失っている方々がいらっしゃるなら、この23年度には、再び我らの人生の歩みの中に、見失っていたイエスキリストを必死に探し続け、見出したように、我らも、**もう一度そのイエスキリストとの関係に焦点を合わせ、本気で全身全力を尽し、必死に探し求めて、イエスキリストの関係、日々ともに歩むことが本来通りに取り戻すことが出来るように切にお祈り申し上げます！**

箴言8章17節「わたしを愛する者を、わたしは愛する。わたしを熱心に捜す者は、わたしを見出す。」

親心でヨセフとマリアは**父なる神様も、我らを諦めず、今もなお必ず顧みて下さり、愛し続けて下さっているように、途中であきらめませんでした！**イエスキリストを見出す時まで必死に探し回りました。一日の道のりを行って気付いたヨセフとマリアは一日だけ探し回ったわけではなく、三日も探して、ようやくエルサレムの聖殿、神の宮にまで戻って来て、ようやくイエスキリストを見つけました。

イエス様は**マタイの福音書11章12節に「天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています。」**と言われました。切に、心からイエスキリストを求め、イエスキリストを通して人生をやり直し、正しく取り戻し、神の救いを、神の導きと助けを求めるすべての人に、神はイエスキリストに出会わせて下さり、見出すことが出来るように必ずなして下さるお方であると信じます。始まった23年度、まず、イエスキリストとの関係が回復され、日々そのキリストとともに歩める一年となりますように、それによって、天の御国がみなさんのところにも来ますように神の祝福を切にお祈り致します。

<④イエス見つけたヨセフとマリア>

イエスを見つけた結果どうになりましたか。❶**イエスキリストの真の姿を知り、驚きます。**

本文46-48節で「46**イエスが宮で教師たちの真ん中に座って、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。47聞いていた人たちはみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。48両親は彼を見て驚き**」だと書かれています。ヨセフとマリアが聖殿でイエスを見つけた時、イエスは宮で聖書を教えていた教師たちの真ん中すわって、話を聞いたり質問し

たりしておられ、イエスのお話を聞いていた人々がみな、イエスの知恵と答えに驚いている姿を見て、お二人ともその光景を見て驚きました。

実はヨセフとマリアは12年間ずっとイエス様と一緒に暮らし、二人はだれよりも、イエス様のご誕生の時などのメシヤ真の人類の救い主であるメッセージなどイエス様について聞いたのにも関わらず、生活で忙しく大変だったのかイエスキリストをいつの間にか、普通の子どものように思い込み、接して来た事がここで分ります！

しかし、イエスを見失う過ちの事件を通して、その結果、もう一度イエスキリストの驚くべき神の知恵を持って、神の御言葉を解き明かすことができになる素晴らしさを知る事が出来たのではないのでしょうか。自分の子どもだと思いついてたところから、ご誕生の時の救い主イエスキリストの出来事やメッセージをもう一度思い出したでしょう。

みなさん、人が驚くべきイエスキリストはどんなお方ですか。いつのまにか、我らもクリスマス時だけ聞いて忘れてがちなので、もう一度思い浮かばせ、日々覚え、そのイエスキリストと実際ともに交わり、共に生きることが出来るように祝福を祈ります。

驚くべき御名イエスキリスト イエスはどんなお方でしたか。

旧約聖書イザヤ書9章6節には「**ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神永遠の父、平和の君」と呼ばれる。**」

イエス様は我々の不思議な助言者の神様(Wonderful Counselor)です。イエスは神の知恵をもっておられ、人が知らない、人が分らない全ての問題に関して助言する事ができるおどろくべき神の御子であるお方です。今日の時代はどれだけ相談者を必要としているのでしょうか。小学校までもそのような相談者がいる時代になってますが、我々には自分の心、自分の問題を夜通し聞いてくれるだけではなく、悩み問題を根本的に解決してくれる知恵に満ちたアドバイザが必要なのです。しかし、我々には叫ぶ広場がありません。さびしいです。追い詰められています。不安です。いくら人の相談者のドアをたたいても根本的な解決策がありません。

現代の相談学は発達しましたが、人の悩みも、相談学の悩みもどんどん多くなって来ています。しかし、我々が心に受け入れ信じているイエス様の名は**不思議な助言者**であり、相談者であられます。我々にいのちを与え、我々を造られた方が、同時に我々を治すこともできます。創造主なる神様が我々の苦しみ、なやみ、問題を知らないのでしょうか。イエス・キリストの御名は**不思議な驚く最高のカウンセラー**であり、解決を与えて下さる知恵あるお方である事を忘れないでください。昨年一年間、みなさんはどれほど**不思議な助言者の助け**を体験し、解決される経験をして来ているのでしょうか。そのイエスキリストは実際に今も共におられるインマヌエルの神として、日々信じ、頼る我らに神の知恵と助けをもって驚くべき体験をさせて下さるお方であられます。

そのイエスキリストが今日も私たちを呼び寄せています。「**(今も)すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。(マタイの福音書11:28)**」

イエス様はこう言われました。「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに帰って来るのです。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」(ヨハネ14:16, 18, ヘブル13:5, マタイ8:20)」

イエスキリストの御名は **全能なる神様(Mighty God)** であられます。「MIGHTY、全能なる神」であられる意味でしょう。私たちがこの世で生きるために知恵だけあってはいけません。**守る、守られる力、時には限界を超える力も必要なのです。知識、力、権威などを力だと思ふ方々は多いと思います。しかしこれらのすべての力は全部過ぎ去る影のようなものですが、イエス様は全能の神様(Mighty God)であられる為、私たちの出来ない全ての悩みと問題を解決し、貫き、乗り越えさせる力、生ける恵みと力をも日々与えて下さるお方であります。人の心も、人生も、すべての苦しい人生の環境でさえ変えてくださる、それだけではなく、人の出来ない**罪と死の力をやぶり、私たちに暗闇から光に、ハデスつまり地獄から天国に、永遠の死から永遠のいのちに移して下さる全能の神**がまさにイエスキリストなのです。**

「イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」(ヨハネの福音書11章25-26節)」みなさんは昨年を振り返って見れば、一生懸命頑張ってきたが、またどれほど自分の無力と限界、疲れを感じた一年でしたか。しかし、その時に、全能なるイエスキリストの助けと力を頂きましたか。

ぜひ新しい23年度にはさらに日々上からの神の力によって揺るがない人生、乗り越え前進する力あるみなさんと一年となりますように祈ります。

イエスキリストは【永遠の父(Everlasting Father)】なる神様です。イエス・キリストは父なる神と同じように世のはじめからおられ、とこしえまでもにおられるお方です。そのイエスキリストを信じる者なら、イエス様が教えてくださったこの祈りをささげることができるでしょう。「**天におられる我らの父よ!**」我々のあやまちも罪も赦して下さる父、強い腕で我々を守って下さる父、我々の問題を解決して下さる力ある父、愛の腕で我々を抱きしめ、慰めて下さる父! イエス様はこう言われます。**マタイの福音書7章7-11節**ではこう言われます。「**求めなさい。そうすれば与えられます… あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましよう。」**

そして、**イエスキリストは平和の王(Prince of Peace)なる神様です。**愛するみなさん、イエスキリストはインマヌエルの神としてこれからも我らと共におられ、みなさんの心と思いにあはれみで守って下さいます。

「わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がしてはなりません。ひるんでは(恐れては)なりません。(ヨハネの福音書14章27節)」

しかし、イエス様はイエス様を信じ、御心に従う者らにこのような平安を約束されました。

ピリピ人への手紙4章7節にも「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにあはれみで守られる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」嵐の中でみなさんは今年もあちにこちに影響され、流されて、追われて来ていませんか。それとも嵐の中でも主の平安を経験して来たのでしょうか。是非新年を迎えながら、さらにどんな場合にも揺るがない主の平安うちに心も、体も、生活のいとなみが守られ、祝福されるように祈ります。

基督教歴史の中で祈りの人だと言うなら、当然ジョージ・ミューラ (Muller, George) 先生だと言われる先生がいました。しかし、ミューラは子どもごろから教会に通っていましたが、中学生になるごろ、イエス様を信じて別にも良いことも無さそうで、日曜日に遊ばないし、酒も飲めないし、タバコも出来ないし、色々制限されるのがいやで教会を離れ、放蕩な生活をしました。ところがある日、盗んでた時に捕まれ、刑務所に入れられた時、刑務所の中で寒くて、お腹もいつもすいて苦しい日々を送っていたある日、ある看守からミューラは一つの本をもらいます。その本が聖書でした。その聖書によってミューラは牢屋の中で生まれ変わります。以前子どもごろ、ただ聞いて知っていたイエス様ではなく、自ら聖書を読みながら、自分の罪さえも赦して下さる本当の救い主イエスキリストと出会い、心の扉を開いて受け入れました。その時がミュウラー先生の16才でした。その日以来、召される94才の時まで、イエス様に対する絶対信仰を持って日々イエスキリストと共に歩みながら、常に祈られた結果、5万回以上の祈りの答えを神から頂く祝福された人生をおくる事が出来ました。

今受け入れて信じている救い主、全能なる神イエスキリストはいくらでもみなさんの考えと期待にあはれみで、驚く事を起こせるお方である事を忘れないで信じて下さい！是非23年度にもさらなる全能なる主の力と御業の素晴らしさを日々の生活の中で、牧場の中で経験するさらなる祝福の年となりますように！

②イエス様は父の家なる聖殿の中におられるお方

本文49節に「すると、イエスは両親に 言われた。「どうしてわたしを捜されたのですか。わたしが自分の父の家にいるのは当然であることを、ご存じなかったのですか。」

イエス様は“自分の父の家”、つまり、当時は**聖殿(神を信じる民がともに礼拝を捧げる、御言葉が解き明かされ、祈られるところ)**、主が天に上られてから、**地上に出来た主の教会に必ずおられる神様**であるということでしょう。

もちろん、神なるイエスキリストは我々の心にも、どこにもおられ、制限されないお方であられます。ところが、聖書によると、どこにもおられる神様が、旧約の時は特定の聖幕、聖殿に、その後キリストの御体となる主の教会に臨在されておられるのを聖書はよく教えて下さっています。

今日の本文で大変残念だったのは、ヨセフとマリアが他のところに迷わずに早速聖殿に来たなら、すぐイエス様を見つけることが出来たはずではないでしょうか。そしたら、余計な力、エネルギー、物質、時間などたくさん損になる事がなかったかも知れません。聖殿は生きておられる神様を礼拝し、その神様の臨在を体験するところだったので、すべての問題を解決される所でした。

聖書を見ると、すでにハンナは子供がずっと授からず、苦しい時に聖殿で神に祈り、サムエルが与えられたのではないのでしょうか(第一サムエル記)。ヒゼキヤ王は病で死にそうになった時、国家の危機に直面した時、聖殿に入って祈り、命が延ばされ、国が守られました(第二列王記19章)。使徒の働き3章1節で、「ペテロとヨハネは、午後3時の祈りの時に宮に上って行った。」と書かれています。歴史的に聖殿に、そして主の教会に行き祈る事でその問題が解決出来なかった人はいません。なぜでしたか。生きておられ、全能なる神がそこに臨んでおられるからです。みなさん！幸い我々の教会では、主日礼拝だけではなく、家の教会も5つ(江南・ひかり・あおひら・美ら・三重はドイツでも行っています)もあります。そして、近いうちにさらに家の教会が増えて行くことを祈っております。家の教会でも主日礼拝の時とまったく同じように、神様をあがめ、神様が共に臨在され、イエスキリストが共におられますので、そこでみなさんの悩みを分かち合い、打ち明けて祈りを共に捧げる事に神様が必ず家の教会でも等しく臨在され、全てを答えてくださいます！！23年度に、一人でも祈れますが、もう一度ともに主の教会であるクリスチャンプレイズチャーチで、家の教会でも祈りながら、全ての問題解決と神の応答の神体験が出来るさらなる祝福の一年となりますように切に祈ります！

③イエスキリストを心に留めて置く

本文51節に「母はこれらのことをみな、心に留めておいた。」と書かれています。

ヨセフとマリアはイエスを見失う事件によって**イエスが驚く素晴らしいお方であり、聖殿の中におられる方である事**を分かったため、**イエスが語られたすべて驚いた出来事やイエス様のお言葉を心に留めておいた**のはとても当然な反応だったかも知れません。

ヨセフとマリアは今まで12年間もイエスと共に暮らして来ましたが、イエスの御言葉を心に留めておくことはまったくなかったわけです。しかし、その日からずっとイエス様の御言葉を心に留めておくことになったと信じます。

マリアはある婚礼の家でぶどう酒がなくなって困っている時、イエス様に伝え、そして手伝いの人たちにも「**あの方が言われることは、何でもしてください。**」(ヨハネの福音書2章5節)と言われました。その結果、イエス様が語られた通り、水がめの水全てが新しいぶどう酒に変わる神の奇蹟をその家庭にいたすべての人は経験することになりました。ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！新しい23年度には常にイエスキリストの御言葉を心に受け入れ、共に歩み、常に主の御言葉を心に留めて従い行う時に、さらなる神の力と恵みを体験する事が出来ると信じます。

今日のメッセージを終わらせたいと思います。22年度にあった自分の全ての過ちは我々の永遠のカウンセラーであり、全能なる神であり、永遠に存在する父であり、平和を与えてくださる王であられる素晴らしい御名イエスキリストの御前に今全てを下ろし、イエスキリストから離れることなく、キリストとともに日々歩み、味わりつつ生きるうちに、今も生きておられ、ともにおられるイエスキリストの恵みと祝福にあずかる特別な23年度となります愛する全クリスチャンプレイズの神の家族となりますようにイエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！